

//REPORT//

令和 5 年度ユネスコスクールオンライン意見交換会

12/21(木)開催 第 4 回

「実践事例を通して学ぶ国際デーの取り上げ方」



ユネスコスクール事務局では、令和 2(2020)年度より、ユネスコスクールオンライン意見交換会を 1～3 カ月に 1 回のペースで実施しています。今年度第 4 回目は「実践事例を通して学ぶ国際デーの取り上げ方」と題して、20 名の参加者と対話の場をもちました。

■ プログラム

開催日時:2023 年 12 月 21 日(木) 16:00～17:00

時間	内容
16:00	オープニング ACCUCO教育協力部 部長 大安喜一
16:05	実践事例① 飯田市立上村小学校
16:15	実践事例② 岡山県立和気閑谷高等学校
16:25	コメント かながわユネスコスクールネットワーク (KAN) 事務局長 望月浩明氏
16:30	事業紹介 日本ユネスコ協会連盟 柴田香里氏
16:32	ディスカッション
16:50	全体共有
17:00	クロージング

■ 実践事例① 飯田市立上村小学校

以下、ご発表いただいた実践事例の概要です。

昨年度から上村小学校に赴任しており、転勤が決まった時の引継ぎで、当校がユネスコスクールの正式加入に向けた段階にあるというお話を伺いました。また、ほかに 2 校、ユネスコスクール加盟を目指している長野県飯田市の中学校と小学校のユネスコスクール担当の先生方に、ユネスコスクールの加盟条件として「国際デーのお祝いをする」ということをお聞きました。しかし、「ユネスコスク

ール」がどのような理念なのかを知らない上、国際デーのお祝いというものがあるらしい、ということで、この国際デーをどうしたら良いのかと重く感じたところが正直な気持ちでした。まず、自分が納得して先生方や児童たちと取り組んでいくにはどうしたら良いか、ということで、ユネスコスクールのホームページを見て、学校が今まで何をしてきたのか、過去の資料を読むところからのスタートでした。当校は全校児童 19 人という小規模校で複式学級なので、5・6 年生の担任の先生にご相談し、5・6 年生と一緒に国際デーについて考える時間を作ってもらいました。ACCU 内ユネスコスクール事務局からも国際デーのお知らせを毎回送っていただいています。それを児童たちとホームページで見て、その中から私たちがユネスコスクールとしてお祝いできる国際デーはどれかということを考えました。「これなら一緒に調べて何か全校で考えられそうだな」ということで児童たちが選んだものが、「人権デー」と「国際平和デー」と「教育の国際デー」の 3 つでした。

実際の取組としては、「ユネスコスクールの一員として国際デーの意義を考える」ことに重きを置きました。

「国際平和デー」については、昨年度、地元の信濃毎日新聞の一面にこの国際デーが大きく取り上げられていたので、この新聞記事を使って、戦争について振り返って「私たちの心の中に平和の砦を築こう」というユネスコの理念を全校で考えました。今年度も信濃毎日新聞に同じように記事が載っていたので、昨年度の活動に加え、戦争の写真や戦争をしている国を表した世界地図等を使って話をしました。

「人権デー」では、人権週間に合わせて、児童が人権について話をしました。児童が「人権とはこういうことではないか」と考えたことを 5・6 年生が全校に向けて話しました。

また、国際デーの話をした後、書き損じはがき¹の話に繋がりました。当校では上村地域の 200 世帯すべてにお便りを配るので、たくさんのはがきやプリペイドカードを持ってきていただき、ありがたかったです。学校だよりには児童たちからのお礼を記載しました。

国際デーがあるということは、私たちがより良い世界を作っていく、より良い世界に繋げていくことであり、国際デーがあることは誇りで、さらに向上させていきたいと思うのですが、年間を通してたくさんの行事や活動がある中で、国際デーの扱いについても児童が「やらされている」と感じたらいけないと思っています。児童が自発的に楽しみながら国際デーをお祝いするためにはどうしたら良いか、ということが現在の課題です。

国際デーのお祝いを通して日本の他地域や学校、世界の学校と繋がるような活動をしていくと楽しいのでは、と思いながら、まだ児童をそのような意識に繋げていけないので、様々なユネスコスクールの活動を参考にしながら国際デーの扱いを学ばせていただけたらと思っています。

■ 実践事例② 和気閑谷高等学校

以下、ご発表いただいた実践事例の概要です。

岡山県立和気閑谷高等学校が昨年度取り上げた 2 つの国際デーについて事例紹介をいたします。

¹ 書き損じはがき・キャンペーン(<https://www.unesco.or.jp/terakoya/kakisonji/>)

本校は令和 2 年に創学 350 年を迎えました。日本最古の庶民のための学校「旧閑谷学校」をルーツに持っており、誰でも教育を受けるべきだという精神はこの頃からずっと受け継がれています。多様な生徒を受け入れ、それぞれに合った形の教育を提供できるようにと日々活動しているところです。

また本校は岡山県の東部に位置しており、自然豊かな閑静な場所にあります。JR の和気駅が徒歩 3 分程度と、田舎でありながら岡山市の中心部や兵庫県にも行きやすい立地の良い場所です。

本校には普通科とキャリア探求科の 2 つの科があり、普通科では 2 年時から「特別進学系」と「協働探究系」に選択が分かれ、特に「協働探究系」では週に 1 日 6 時間を探究学習に充てる「地域協働探究」という学校設定科目もあります。キャリア探求科の方は、ざっくりいうと商業科をイメージしていただければ良いと思いますが、2 年時から選択があり、「福祉」、「会計」、「流通」とそれぞれ自分の望む進路に向けた選択していくことになっています。

定員は 1 学年 120 名程度で、全校で 360 名まで受け入れ可能ですが、現状としては全校生徒 271 名ということになります。多様な生徒がいる学校で、生徒へ成長の仕掛けを作りたいと思っており、その中でも総合的な探究の時間の「閑谷學」、学校設定科目の「地域協働探究 α β 」、キャリア探求科の「課題研究・商品開発」のような教科というのは、積極的に地域に出る中で生徒が成長していけるような授業になっています。最終的には生徒たちが地域の担い手となって地域自体を育てられるような人材になってほしいと思っています。

さて、本題の「国際デーの取り上げ方」について事例紹介をします。まず、国際デーを取り上げるにあたって大切にしている 3 つの考え方を紹介します。

1 つ目は、「地域と協働して取り組んでいるかどうか」。2 つ目は「持続可能な活動で、生徒が主体となって活動できているかどうか」。個人的には 3 つ目を一番大切にしたいと思っていますが、「今すでに生徒たちが行っている活動、学校で取り組んでいる行事などに関連づけや意味づけを行ってユネスコスクールの活動にできているかどうか」です。

昨年度は「世界禁煙デー」と「教育を攻撃から守るための国際デー」の 2 つを取り上げました。まず、「世界禁煙デー」についてです。「世界禁煙デー」では地域の保健所と本校の保健美化委員会がコラボして活動しました。近くにある和気駅の前で、のぼりを立てながら地域住民の方と一緒に啓発のリーフレットやポケットティッシュを配布しました。あいさつ運動もかねて、地域の活性化になれば良いとも思っています。加えて、校内でも全校生徒に向けて周知したいということで、啓発リーフレットを配布するとともに、毎月刊行している「ほけんだより」の「世界禁煙デー」の特別号を各クラスに掲示してあります。また、保健美化委員長による校内放送で全校生徒の意識をより高めています。

続いて、「教育を攻撃から守るための国際デー」についてです。皆さんご存じのようにロシア・ウクライナ戦争では罪のない子どもたちが不当に被害を受けている現状が今なお続いています。中でも、学校機関への攻撃については皆さん心を痛めているのではないかと思います。本校生徒もそれは同じく感じていたようで、私たち自身で何かできることはないかと生徒から申し出があり、ウクライナ支援募金活動を行いました。キーワードは「寄付つきの商品を販売していく」ということです。ガチャガチャによる寄付つきの商品を販売することで、高校生が主体となって製作に取り組むため生徒の学びになることはもちろんですが、ガチャガチャという形にすることで子どもからお年寄りまで 1 人でも多くの人が

平和について考えるきっかけになるという点も狙いの 1 つでした。

このようなガチャガチャによる寄付つき商品販売の経緯として、本校のキャリア探求科で商品開発の授業があり、創学 350 周年記念の際にガチャガチャマシーンを製作したという背景がありました。ガチャガチャの内容には、和気町にゆかりのある商品を開発して入れており、例えば旧閑谷学校の缶バッジ、地域の備前焼を使ったマグネットなど、地域にまつわるものを商品として中に入れていました。特に令和 3 年度の生徒たちは、自分たちで考えた和気町のオリジナルキャラクターをキーホルダーにして販売していました。これを令和 4 年度では、ウクライナカラーに変えて、売上金を寄付できるような仕組みに作り変えました。

元々は、和気町で有名な藤の花や、和気町に伝わる伝説に出てくるイノシシをモチーフにしたオリジナルキャラクターをキーホルダーにしていました。これを生徒が授業等でウクライナカラーに変更して商品にしました。基本的にこのガチャガチャはずっと本校に設置しているのですが、様々なイベントのたびに各所へ設置していただいています。特に岡山市にある表町商店街での募金活動は、テレビや新聞にも取り上げられて、非常に大きな反響がありました。

それだけではなく学校全体の文化祭でも、ウクライナの教育について考えるというテーマで活動しました。本校の文化祭では伝統的に 2 年生が教室展示を行います。展示内容について指定はなく、例年自由に作成していたのですが、この年はこの方が学びも深まるだろうということでテーマを「ウクライナ」に設定しました。すると生徒たちは、自分たちや地域の方々が楽しむのはもちろんですが、青や黄色を基調にした、ウクライナの国旗の色に合わせた展示物を作ったり、ウクライナの観光名所を飾ったフォトスポットを作ったりするなど、様々な工夫を見せてくれました。文化祭の時にも、ガチャガチャ募金は当然ですが、自分たちで募金箱を作って各会場の出入口に設置するなど、様々な場面で募金を行いました。返礼品も生徒たちが考えて来場者に配り、来場者も平和について考える機会になったのではないかと思います。

こうして集めた募金の総額は 16 万円を超え、岡山県のユニセフ協会に寄付しました。遠く離れた場所にも自分たちの想いが伝えられるということで、生徒たち自身が実感を得た活動になっていたようです。文化祭の後にも、ウクライナから岡山に避難してきた方に講演をお願いするなど、今でも活動を続けています。

まとめとして、本校が国際デーを取り上げて活動するために、ということですが、私もここ 1～2 年で担当になりまして最初は新しい活動を始めなければならないのではないかと、すべて自分たちの学校内で自分たちがしなければならぬと思い、そのような思い込みの中で考えていましたが、それだと確かに教員の負担が増えると感じていました。ですが、今すでにやっている活動にしっかり意味づけをしていくことで、ただの学校行事ではなくユネスコスクールとしての活動に変えていけると考えています。

また、地域と協働して行うことで、初めの計画段階では少し力が要りますが、最終的には地域の方々と生徒たちが自走していける活動に変わったり、地域を巻き込んでいくことで高校の中だけではなく、地域の方々もユネスコの視点に触れてもらえる機会になったり、活性化につながると実感しています。

最後に、これが一番だと思うのですが、このように生徒の活動を意味づけしていくことで、生徒たち

の充実した学びにつながっていると思っています。

■ コメント

2 校の実践事例ご発表を受け、かながわユネスコスクールネットワーク（KAN） 事務局長 望月浩明氏よりコメントを頂きました。以下、概要です。

上村小学校は本当に少人数の学校でも非常にしっかりした活動をしていると思います。特に感心した点は、地域と連帯をして、地域の方々が学校に様々な形で協力してくれていることです。そのような活動はやはりユネスコ活動が目指すところだと思います。学校だけではなく、地域との連帯が非常によくできていると思いました。学校行事が多くなかなか大変ですが、和気閑谷高等学校の発表にもありましたように、今ある行事をうまく国際デーと結びつけることによって、教師の負担を減らすことができると思います。したがって、あまり無理をせず、新しいものというよりは、あるものをうまく利用して幅広い解釈で実施することができると思います。

閑谷高等学校は、やはり高校生になるとしっかり考えて自分たちで工夫しながら活動できていると思います。特に感心した点は、文化祭で様々なテーマに基づいた活動をしたり、あるいはガチャガチャを自分たちで発想して作って活用したりしながら募金活動を実施し、ウクライナのために支援をするという自主的な活動ができるということです。この点は、やはり高校生の素晴らしさではないかと思います。

さて、1974 年にユネスコが世界中の学校に対して、このようなことを目指して教育を頑張らしようという「教育勧告」を出したのですが、こちらが最近一部改められました。一番の注目点は、子どもたちが学ぶことによって変化・変容をすることを目指す、ということです。かつては様々なことを知識として覚えれば良かったのですが、今はそうではなく、覚えたことを実際どのように活用していくか、ということが求められるようになってきています。

閑谷高等学校では生徒たちがまず知識を得て、それを活動に生かし、その中で子どもたちがこういうことをやって良かったな、というような生徒の変化が出てきたと思います。まさに新しい勧告の精神にのっとった活動ができていると思います。非常に素晴らしい活動だと思いました。

先ほど 2 つの学校に発表いただきましたが、本日ご参加の実践女子学園中学校高等学校も生徒が自分たちでこんな風なプログラムを作ったら良いのではないかと考え、非常に自主的な活動をされています。ホームページ上でご覧になれますので、ぜひこちらも参考にしてください。

意外とユネスコスクールでは、国際デーの取り扱いが少ないという現状があります。昨年度からユネスコスクール定期レビューといってユネスコスクールとしてしっかり活動をしているか評価する仕組みが始まりました。その中でやはりこの国際デーについて活動している学校が少なく、国際デーの項目の評価があまり高くないと聞いています。何をやったら良いのかよくわからないようです。本日参加している先生方は自分のところではこのように工夫している、ここがわからないためどうしたら良いか、ということをぜひディスカッションの中でご意見を出し合って参考にしてもらえたら良いと思います。

■ 事業紹介

国際デーに関連し、日本ユネスコ協会連盟 柴田香里氏より事業紹介がありました。
以下、概要です。

寺子屋リーフレット制作プロジェクトの紹介をさせていただきます。

世界には貧困や紛争で学校に行くことができない子どもたちがたくさんいます。コロナ禍の影響でその数は増加したとも言われています。私たちはそのような子どもたちや学校に行くことができなかった大人たちに対する学びの場である「寺子屋」を提供する、「ユネスコ世界寺子屋運動」という活動を実施しています。寺子屋の建設・運営は、書き損じはがき、プリペイドカード、未使用の切手等の寄付によって賄っています。寺子屋リーフレット制作プロジェクトとは、「ユネスコ世界寺子屋運動」を学習の題材として非識字などの問題を知り、そして考えたことを、自分なりにリーフレットに表現し、まとめ、そして書き損じはがき等を集めるという行動を行う、一連の流れを重視した ESD 活動です。寺子屋はカンボジアやネパールを中心に現在作られており、子どもたち、大人たちが学んでいます。

1 年の流れの説明をします。このプロジェクトと関連する「国際識字デー」をはじめ、教育や子どもを守ることにつながる国際デーが秋に多数あります。そのため、9 月以降にこのプロジェクトが開始できるよう、5 月から 8 月にかけて参加校の募集を行っています。必要な学習資料やリーフレットの素材となる写真はすべて提供いたします。だいたい各学校、6 時間から 10 時間ほど、総合の学習や社会、公民、情報の時間などを使って取組を行っているようです。秋から冬にかけてリーフレットを作成し、12 月下旬にそのリーフレットを提出いただきます。児童・生徒は作成したリーフレットを元にしながら大掃除や年賀状の時期である 12 月下旬から 1 月にかけて書き損じはがきや未使用の切手、プリペイドカードなどの回収を行います。1 月、2 月ですと、「教育の国際デー」や「国際母語デー」がありますので、それらと関連づける学校も多いようです。最終的に 3 月にコンテストの結果発表が行われて 1 年のプロジェクトは終了しますが、翌年以降、新しい寺子屋等が建設された場合は、プロジェクトへの参加、書き損じはがき等の回収に協力してくださったことへの感謝を込めて参加校の名前を刻んだ銘板を寺子屋に置きます。

このような形で国際デーを祝いつつ身近なところから世界に貢献できるというプロジェクトですので、国際デーで迷っている方や国際理解の分野で何かプログラムを用意したいという学校はお気軽にお問い合わせください。

■ 全体共有

以下、ディスカッションにて話し合われた主な内容です。

-
- 国際デーの意味づけ、位置づけに関し、過去どんなことに取り組んだか、どんな風にこれからやっていけば良いかについて話し合った。特別国際デーとして取り上げるというよりも、既存の学校行事と関連させ、全体を巻き込みながら継続的に続けていくことが大事であると感じた。さらに発展させ、国内外のユネスコスクールのネットワークを活かして活動できるようになれば良いと思う。
 - 保育園、小学校、中学校、高等学校とすべての校種が揃うグループで話し合った。悩みとして、国際デーと学校行事のタイミングがなかなか合わない、国際デーを祝う際の規模は

どの程度なのか、という声が挙がった。これに対し、私たちの活動そのものを持続可能にしていこうと、つまり普段の日常活動の中でどう国際デーを溶け込ませていくのかということが大事なのではないか、という観点から、国際デーを少しでも意識することで、日々の学びが豊かになる、という考え方を学んだ。

- 活動をスタートしたばかりのキャンディデート校 2 校の参加があった。国際デーはその日にやらないといけないのか、あるいは国際デーは全部でいくつあるのか等基本的なことが分からずなかなか取り組むことが難しいという声が挙がった。その日でなくてもその前後 1～2 週間の間で取り組んでも、ずらしても問題がないため、幅を持たせ、先生方がやりやすい形で取り組むのが一番良いという話が出た。
- 様々な国出身の先生方がいる学校では、特色を生かした形で国際デーと結びつけてやっていく、あるいは持続可能な開発や世界を築くために、色々な学科とコンタクトを取りながらやっていく等、それぞれの学校の特性も溶け込ませることができるのではないかと。
- グループ内に駆け出しで勉強中の学校が多かったため、国際デーと既存の活動との紐づけがなかなか難しい、という話題になった。図書館での展示、放送での国際デーの紹介等の活動例が挙がった。
- 年間に多数ある国際デーの中から何を取り上げるのか、取り上げるときの基準などはどのようにしていけば良いのかが疑問として挙がったが、結論は出なかった。悩みや実践報告を共有した。



[オンライン意見交換会の様子]

※オンライン意見交換会に関し、お申込み方法などの詳細は、[ユネスコスクール公式ウェブサイト](#)内

「最新情報」、[ユネスコスクール公式 Facebook](#)に掲載中です。ぜひご参加ください！